大本組のＤＸ

2024年8月1日　　初版
2025年3月28日　更新

ＤＸビジョン

- 大本組は、**中期経営計画（2024～2026年度）**とともに **長期ビジョン2036** を策定し、2036年度（第100期）にありたい姿を描きました。
- **「想いを築き、幸せを創造する」**会社となるために、ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）は、経営戦略上、重要な取組みのひとつと考えます。
- 私たちは、以下のビジョンを掲げ、大本組そして建設業の未来を創造し、ＤＸを推進します。

ＤＸで進化し、達成する「大本組 長期ビジョン2036」

選ばれる大本組になるためのＤＸ
魅力ある建設業になるためのＤＸ

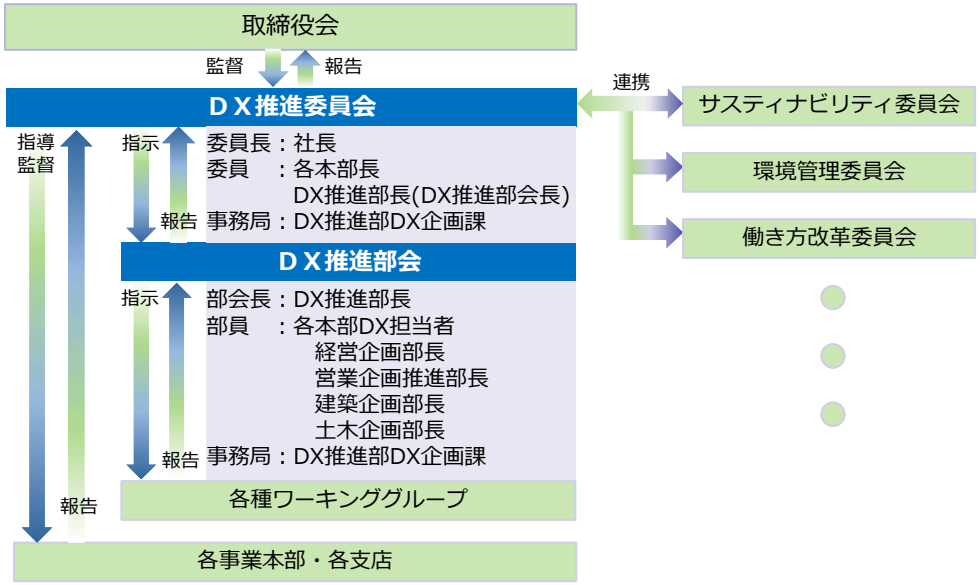
- ＤＸは、進化したデジタル技術を駆使してビジネスを変革することを意味します。
- オフライン（現実世界）とオンライン（デジタル空間）の融合により、新たなイノベーションを生み出し、生産性の向上、お客様満足度の増大、コスト削減、働き方改革などを実現し、企業価値を高めます。
- 大本組のＤＸは、お客様、株主様、学生の皆様、協力会社様、社員および家族の皆様など、すべてのステークホルダーとの関係を、想いのこもったデジタル技術で支え、信頼される仕組みを再構築し、提供します。魅力ある建設業になるために、会社と社員が共に進化し続けるＤＸを推進し、社会に貢献してまいります。

ＤＸ戦略

1 社内環境の整備

- ✓ DX推進委員会の設置
- ✓ DX推進部の新設
- ✓ DX人財の育成

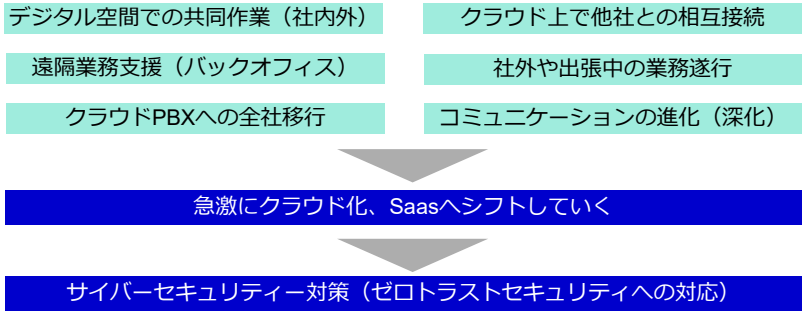
- 4月1日付けで、全社のDXを統括する部署として、管理本部内に「DX推進部」を新設しました。
- 部門横断的な組織として「DX推進委員会」を設置し、DX推進に係るガバナンス及びリスク管理体制を整備しており、適切に運用してまいります。
- 人的資本経営の観点から、全社員のデジタルリテラシー向上、またリスキリングを目的とする教育体制を構築し、DXに有用な人財を継続的に確保していきます。
- DX部門の教育、人材確保、適正配置（ローテーション）をサイクル化し、DX要員のスキルを向上させていきます。



2 多様な働き方の追求

- ✓ オンラインとオフラインの融合
- ✓ 仮想と現実の融合（デジタルツイン、メタバース）
- ✓ コミュニケーション手段を統合し、働き方を進化させる

- オンライン（仮想空間）とオフライン（現実世界）の融合により、時間と距離を考慮することなく、業務遂行が可能となる環境を構築します。
- 多様な働き方や柔軟な会社組織の運営を通じて、働き方改革やＢＣＰを加速します。
- 今後企業のシステムは急激にクラウド、SaaSにシフトしていくことから、サイバーセキュリティー対策を一層強固に構築する必要があります。ゼロトラストセキュリティー、ゼロトラストネットワークへ対応することにより、安心安全な業務遂行を可能とします。



※SaaS：Software as a Serviceの略。※クラウドPBX：自社で保有するPBX(電話交換機)を廃止し、クラウド上のサービスを利用し同等の機能の提供を受けることができる

ＤＸ戦略

3 業務DX

- ✓ ERP（基幹情報システム）のリノベーション
- ✓ 各業務システムのシームレスな連携
- ✓ 過去の技術情報・PJ情報に紐づくナレッジの検索・活用
- ✓ ペーパレス化による時間の有効活用及び環境保護への貢献

取組項目 / **もとめる効果**

基幹業務システムのリノベーション

- 最新デジタル技術を取り入れ、システムを再構築
- ペーパーレス・キャッシュレスを強力に推進し、業務プロセスを変革
- 発注(契約)、購買（納品・出来高請求）を電子化・オンライン化
- レガシー技術を廃し、処理時間、手順を高速化（実行予算・原価管理予算）
- 承認、参照業務のマルチデバイス対応（iPhone・iPad）

もとめる効果：業務量の削減／組織、業務体制の見直し／コア業務への集中／高価値な業務への転換

営業支援システムの全面刷新

- SFA/CRMシステムを導入
- お客様との関係を最重視しシステムを再設計（適切できめ細やかな対応を可能とする）
- 営業社員の勤務実態に合わせたマルチデバイス対応（入力方法の簡素化など）

もとめる効果：お客様満足度の向上／確実な情報伝達／業務の効率化／受注への貢献

現場支援システムの再構築

- 主要な機能は、最新技術でシステムの操作性を改善
- 過去の蓄積されたナレッジをさらに有効活用することを検討
- システム外の手作業を効率よくシステム化し、データを連携
- バックオフィスとの連携を強化

もとめる効果：業務の効率化／コア業務への集中／確実な情報共有／働き方改革への貢献

経営情報システムの一部刷新

- データドリブン経営の実践。
- BIツール刷新し、統合データベースを高度利用化

もとめる効果：多様な経営分析を実現／経営判断の迅速化

大本組 OHMOTO

ＤＸ戦略

4 施工DX

- ✓ 施工の遠隔化・自動化
- ✓ BIM／CIMを活用した施工のプレファブ化、作業のロボティックス化
- ✓ デジタルを活用したスマート現場管理
- ✓ デジタルツイン活用による施工シミュレーション

取組項目

施工技術のDX

- BIM／CIMの推進
- ドローン技術の活用（画像解析による広範囲測量・現地調査や点検、検査）
- 自律型建設ロボット技術の導入
- 鉄筋等の出来形確認自動化技術の導入
- ニューマチックケーソン工法における自動・自律掘削システムの開発、実装
- トンネル切羽における省人化施工や覆工コンクリート自動化等の技術導入
- 港湾工事における自律航行水中ドローンによる潜水作業の省人化

施工管理のDX

- 現場運営に関わる情報共有を紙からデジタルにシフト
- 4Dモデルによる施工計画の立案、作業シミュレーション
- リモート施工管理
- 完成物件情報・GIS（物件地図情報）・ナレッジの有効活用
- バックオフィス連携（現場サポート体制の充実）

もとめる効果

技術力の向上	提案力の向上
生産性の向上	コスト削減
安全性の向上	リスク管理の強化
工期の短縮	サスティナビリティへの貢献

効率的な管理	働き方改革
確実な情報共有	コア業務への集中
作業手順の高度化	安全性向上
効果的な社員育成	若手への技術継承

マスタースケジュール

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
社内環境の整備				
DX推進部の新設	完了			
DX推進委員会の設置	完了			
DX人材の確保	検討			
DX教育の実施	検討		運用	
多様な働き方の追求				
SaaS、クラウド環境への対応	随時対応			
遠隔業務支援（バックオフィス）	検討	検証	運用	
デジタルツインの業務への適合	検討	検証	運用	
コミュニケーション手段の統合・進化	検討	検証	順次展開・運用	
サイバーセキュリティー対策の強化	検討	検証	順次展開・運用	
業務ＤＸ				
基幹業務システムのリノベーション				
モバイル機能廃止（実行予算ダウンアップ）	調査 要件定義	開発	運用	
経費精算システム	選定 要件定義	開発 教育	運用	
電子契約・請求システム	選定	要件定義 開発	教育 運用	
マルチデバイス対応	調査	開発	運用	
営業支援システムの全面刷新	選定 要件定義	開発 教育	運用	
現場支援システムの再構築	調査	要件定義 開発	運用	
経営情報システムの一部刷新	調査・選定	検証	運用	
施工ＤＸ				
施工技術のＤＸ	調査・研究・検証・運用			
施工管理のＤＸ	調査・研究・検証・運用			

大本組 OHMOTO

戦略の達成状況に係る指標（ＫＰＩ）

ＤＸ推進の管理指標を設定し、中期経営計画最終年度までの達成状況を定期的にモニタリングしていきます。

ＤＸ項目	管理項目	指標
業務ＤＸ （基幹業務システムリノベーション）	モバイル機能の廃止を2025年10月までに実施します。	業務量50%削減
	新経費精算システムを2025年10月までにリリースします。	業務量30%削減 各支店資金50%削減
	電子契約・請求システムを2026年10月までにリリースします。	業務量30%削減
業務ＤＸ （営業支援システムの全面刷新）	SFA/CRMシステムを2025年10月までに導入します。	業務効率10%向上

www.ohmoto.co.jp/

ディスクレイマー

本資料に記載されている計画等の将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報に基づき経営者が判断したものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社　大本組

管理本部長　富塚　照彦

TEL.　086-225-5131